

中山道宿場町探訪 第3回鵜沼宿

2025年2月9日に開催しました。

気温は低かったが良い天気めぐまれ有意義な一日でした。

鵜沼宿駐車場10時の集合し、江戸時代に描かれた絵図を見ながら散策を開始しました。宿場の東入口である「鍵の手」の少し手前まで移動しました。この場所には「高札場」が復元されており、藩主成瀬隼人正の御触書が掲示されています。また道路反対側には榜示石が移築されています。この石柱は宿場から西方一里付近に建植されていたもので、当時鵜沼村と天領であった各務村が中山道上に国境があったため境界を示していました。

更に絵図を見ながら散策し里道が市道に変わり、土橋がコンクリート橋に変化した橋を渡って旅籠絹屋に到着しました。こちらは明治期になって郵便局となり、現在は各務原市の観光案内所となっています。ボランティアガイドさんの案内で建物の設備や郵便局時代のお話を聞きました。太田宿から明治期に移築された「離れ」の内部も見学しました。

伊能忠敬の大日本地図鵜沼村を見ながら、宿泊した本陣跡や測量方が天体観測を行った地点に立ち往時をしのびました。

本陣西方に復元された「脇本陣」に立ち寄りました。こちらは現存する平面図から太田宿脇本陣を参考に建築され、見学とボランティアガイドの案内を受けられます。

中山道に向かって門を構える旅籠丸一屋（坂井家住宅）や若竹屋（安田家住宅）など数軒の



景観重要建造物を見学して終了となりました。

旅籠絹屋の玄関で記念撮影をしました。こちらは明治期に郵便局となり、現在各務原市の観光案内所として活用されています。

10時～16時までボランティアさんによるガイドがあります。



旅籠絹屋(現案内所)

ガイドさんに郵便局時代写真を説明して頂きました。右側に旅籠時代の建物図面が掲示されています。